

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	特色ある教育推進事業			事業番号	09-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部学校教育担当	濱田 保	教育指導課	嶋本 信之	

計 画 (Plan)					
総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり	
		施策展開の方向	5	子どもの生きる力をはぐくむまちをつくる	
		施策	9	きめ細やかな教育の推進	
予算事業名	特色ある教育モデル推進事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務    (選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成25年度	～	終了年度	令和元年度
関連法令等	学習指導要領				
国・県の計画等	-		計画期間	-	
関連個別計画	伊勢原市第2期教育振興基本計画		計画期間	平成30年度～令和4年度	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	新学習指導要領では、平成32年度から小学校5、6年生で英語を教科とし、また、小学校3年生から外国語活動を開始します。また、国では確かな学力を効果的に育成するためICTの活用を推進しています。このため、グローバル化等社会環境の変化に対応できる教育に向けて、モデル事業に取り組み、その成果を市全体に広める必要があります。				
目的 (何をどうしたいのか)	豊かな自然や伝統文化等の地域学習を推進するとともに、外国語教育の充実やタブレット等のICT機器の利活用を図り、グローバル人材の育成に取り組みます。				
主な対象 (誰・何を対象に)	小学校児童				
事業内容 (手段、手法など)	・小規模特認校として指定した大山小学校において、「外国語教育の充実」「ICT機器の利活用」「自然や伝統文化を生かした教育活動」など、少人数を生かした体験活動の充実や異学年交流等を通じた豊かな教育活動に取り組み、その成果を市内小中学校へ広めます。				
事業行程	項目	年度			
		令和3年度	令和4年度		
	外国語教育の充実	継続実施	継続実施		
	ICT機器を活用した教育活動	継続実施	継続実施		
	自然や伝統文化を生かした教育活動	継続実施	継続実施		
事業の検証及び情報発信	市内小学校への情報提供	市内小学校への情報提供			
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			令和3年度	令和4年度	
	外国語活動、外国語科の授業時数	1、2年15回 3、4年35回 5、6年70回 (令和2年度)	1、2年15回 3、4年35回 5、6年70回	1、2年15回 3、4年35回 5、6年70回	

↓  
事業実施 (Do)

## 事業実施 (D○)

<b>事業の「取組方針」</b> (前年度事務事業評価)	大山小学校におけるよりよい教育環境やこれまでの取組内容を生かしなが、引き続き、特色ある教育を推進していきます。			
<b>実施方法</b> 〔選択・記入〕	○すべて直接実施                      ●左記以外			
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	<b>委託先又は指定管理者</b> 株式会社インタラク関東南	
	<input type="checkbox"/> 補助金		<b>補助先</b>	
	<input type="checkbox"/> その他		<b>具体的内容</b>	
<b>実施結果</b>	<b>項目</b>	<b>年度</b>		
		<b>令和3年度</b>	<b>令和4年度</b>	
	外国語教育の充実	継続実施		
	ICT機器を活用した教育活動	継続実施		
	自然や伝統文化を生かした教育活動	継続実施		
	事業の検証及び情報発信	継続実施		
<b>実施した取組の内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年生については年間20回、3、4年生は年間40回、5、6年生は年間70回外国語の学習をしました。</li> <li>・大山小学校に配備した13台のタブレット端末を有効活用し、教育活動を展開しました。</li> <li>・大山や伊勢原の伝統文化を体験していく中で、郷土への理解や愛着を深めました。</li> <li>・小規模特認校の実践事例、成果・課題等を関連の会議等で全小中学校に周知しました。</li> </ul>			
<b>目標の達成状況</b>	<b>【指標名】</b>	<b>年度</b>		
		<b>【現状値】</b>	<b>令和3年度</b>	<b>令和4年度</b>
	外国語活動、外国語科の授業時数	1、2年15回 3、4年35回 5、6年70回 (令和2年度)	1、2年20回 3、4年40回 5、6年70回	

<b>コスト</b>	<b>年度</b>		<b>令和3年度 実績</b>				<b>令和4年度 実績</b>				
	<b>事業費合計 (a)</b>		1,765		千円				千円		
	<b>内訳</b>	<b>国県支出金 ①</b>	0		千円				千円		
		<b>地方債 ②</b>	0		千円				千円		
		<b>その他特財 ③</b>	0		千円				千円		
		<b>一般財源 (a)-①-②-③</b>	1,765		千円				0 千円		
	<b>国県支出金の内容</b>										
	<b>その他特財の内容</b>	<b>受益者負担</b>	○有      ●無		<b>前回の改定時期</b>						
		<b>その他</b>									
	<b>人件費</b>	<b>正規職員</b>	0.18	人	1,472	千円		人		千円	
		<b>その他の職員</b>		人	0	千円		人		千円	
		<b>人件費合計 (b)</b>	0.18	人	1,472	千円		人		千円	
	<b>トータルコスト (a)+(b)</b>				3,237	千円			0	千円	
	<b>単位当たりコスト</b>	<b>対象数</b>	<b>定義</b>	市内小学校児童		単位				単位	
			<b>対象数</b>	4,717		人					
<b>総事業費／対象数</b>		686		円				円			

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	左記判断理由	外国語教育の充実、自然や伝統文化を生かした教育活動、ICTを活用した教育活動において、概ね計画通りに実施することができました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	他都市の事業内容等	外国語教育の低学年からの実施及び高学年における教科化の取組は、近隣他市町村には見られない取組となっております。大山や伊勢原の伝統文化を体験していく中で、郷土への理解や愛着を深めることができました。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	ALTの配置による外国語活動や英語科の学習を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育ってきています。また、「おおやま英語プラン」やタブレットを活用した授業例などについてその内容を市内小中学校に発信することにより、他の学校の参考となっています。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	小学校高学年の英語科や中学年の外国語活動において、本事業によって作成された大山プランをもとにした取組や授業実践を市内で共有することができていて各学校の参考になっています。


 取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	大山小学校でのよりよい教育環境を維持し、これまでの取組を生かした教育活動が行われるよう、必要な条件整備等について検討していく必要があります。
令和4年度の取組方針		大山小学校におけるよりよい教育環境やこれまでの取組内容を生かしながら、引き続き、特色ある教育を推進していきます。		
所管部長による総評		市内全小学校で英語に関する教育課程が本事業と同様に実施されたことから、これまでの事業の成果を市内小中学校で共有していきました。今後の取組の方向性については、更に大山小学校と共通理解を図り推進していくことが必要です。		